

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072500475
法人名	医療法人 福田病院
事業所名	グループホームスマイルライフ
所在地	福岡県大川市大字向島1046-1 (電話) 0944-88-2828

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 11月 27日
評価確定日	21年 1月 15日

【情報提供票より】 (平成20年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	17 人
常勤	16人
非常勤	1人
常勤換算	8.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 月 日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.2歳	最低	70歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	【医】福田病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

バス通りからちょっと奥まった広い敷地内のグリーン屋根・平屋建ての事業所は、住宅地の中に位置し、近くには稲荷神社公園もあり、周囲に田畑も見渡せ閑静な環境にある。利用者が集まるリビングは床暖房になっており、各所に家庭的な暖かさが感じられる。事業所名は公募によって名付けられ、利用者の微笑む人生を願う意味が込められている。それぞれの残存能力にあわせた生活支援を行い、家庭的な生活環境を心がけ、利用者本位に立った介護に取り組んでいる。また母体が病院であり、急な受診や健康保持のための連携が整備されている事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、改善課題は見出されていないが、職員全体で項目ごとに再点検、自己評価し、改善計画シートを作り9項目を提示、それに向けて取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員それぞれの専門分野で各項目毎に分担を決め評価し、全職員の意見を聴取しながら、それを各棟の管理者が集約している。また、外部評価で見いだされた課題はなかったが、運営者・職員は自己評価しながら、地域との関わりや、ケアの勉強会など具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、利用者の日々の活動状況、現在の取り組み状況や今後の活動計画、評価への取り組みなどを報告している。利用者の転倒予防、徘徊SOSネットワーク作り、環境整備など推進会議での意見をサービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	年2回の家族会や意見箱を設置し、職員は来訪時に家族の意見や不満要望など聴取するよう努めている。また、運営推進会議で家族からの意見が出された時には、全体会議で話し合い改善に努める体制作りができています。第三者相談窓口は利用開始時に説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域での夏祭りや文化祭、もちつき、運動会など地域の一員としてイベントに参加し、また事業所の夏祭りにも大勢の参加があり地域との交流を深めている。高校・専門学生・幼稚園児などの訪問受け入れを行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境のなかで住み慣れた地域と交流を持ちながら・・・」と、地域密着型の視点を盛り込んだ事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、週1回朝礼時に唱和し、また月1回全体会議でも復唱し、理念から具体的なケアについての意見の統一を図り実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での夏祭りや文化祭、もちつき、運動会など地域の一員としてイベントに参加し、また事業所の夏祭りにも大勢の参加があり地域との交流を深めている。高校・専門学生・幼稚園児などの訪問受け入れを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員それぞれの専門分野で各項目毎に分担を決め評価し、全職員の意見を聴取しながら、それを各棟の管理者が集約している。また、外部評価で見いだされた課題はなかったが、運営者・職員は自己評価しながら、地域との関わりや、ケアの勉強会など具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、利用者の日々の活動状況、現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告している。利用者の転倒予防、徘徊SOSネットワーク作りなど推進会議での意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は事業所便り持参で、介護更新手続きや報告等で行政担当者に相談、近況等を話している。市が仲介となって同業者のネットワークと一緒に作り上げるなど、意見交換しながら共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度について、外部研修を受けた職員が、資料を基に全体会議で勉強会を実施している。家族には利用時に制度の説明を行っている。テキスト・パンフレット等がある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回発行の事業所便りと併せて、担当職員のためより(生活状況)と日常のスナップ写真を手渡すか郵送している。家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態を伝えている。金銭管理については、月1回金銭出納帳をコピーし領収書と一緒に家族に渡し、確認のサインを貰っている。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回の家族会や意見箱を設置し、職員は来訪時に家族の意見や不満要望など聴取するよう努めている。また、運営推進会議で家族からの意見が出された時には、全体会議で話し合い改善に努める体制作りができています。外食や出前を取って気分転換するなど、家族からの意見をサービスに反映させている。第三者相談窓口は利用開始時に説明している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職は最小限に抑える努力をし、やむを得ない離職の場合には、引き継ぐ期間を十分にとり、スムーズに移行出来るよう配慮している。また、利用者のダメージをなるべく防ぐよう、イベントなどはA棟、B棟合同で行い、全ての職員が利用者顔馴染みの関係を作るように努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては性別、年齢に関係なく採用している。一人ひとり特技や個性を活かせるよう、役割・自己実現が出来る環境づくりを行っている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は人権教育の重要性を認識し、地域の人権教育の研修に参加し、全体会議でビデオ鑑賞、伝達学習を行っている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員に日常的に学ぶ事を推進し、職員各自に応じた段階的・計画的な学びの機会の確保・資格取得に努めている。研修費用の負担もあり、研修内容についても全職員が共有出来るよう伝達研修で報告する仕組みが出来ている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>昨年市グループホーム8施設で、管理者及び職員は同業者と交流し、相互訪問等サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所見学や職員は病院訪問を行い、馴染みの関係を築くよう、家族等と相談しながら工夫している。またやむを得ない緊急利用者については、不安への対応に家族の人に数日泊ってもらい、場の雰囲気に馴染み安心感を持って貰う等、工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理、洗濯たたみ、雑巾がけ、畑・菜園作りなど共に行い、職員が知らない生活の技を利用者から教えてもらったり、生花は以前の得意分野で力を発揮してもらうなど、職員と利用者が共に過ごし、学び支え合う関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また自己表現ができてにくい利用者には家族等や関係者から情報を得たり、行動観察しながら本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当制をとり、本人家族の意見・希望をよく聴き職員の気付きを取り入れ、全職員でカンファレンスを行いアイデアを盛り込み、一人ひとりの状況に応じた具体的な介護計画を作成している。本人・家族の了承を得た署名押印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回モニタリングを行い検討評価し、最低6ヶ月に1回、見直している。状態変化時には随時介護計画を見直し、家族へ報告している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の状態に応じて、通院や送迎などの支援は柔軟に対応し、利用者が入院した場合は見舞いに行き、家族と相談しながら、早期退院に向けた支援を行うなど、医療体制を整えている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望・納得の上で、これまでのかかりつけ医から情報提供をしてもらい、利用後は母体病院が主治医となっている。歯科医・眼科など診療科目によっては、かかりつけ医に受診するなど適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合や終末期の方針を説明し同意を得ている。折々に家族の意向を確認し、主治医・職員・関係者で話し合い合意を図り全員で方針を共有している。方針の手順書などを整備している。また重要事項説明書にも記載している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は外部・内部研修で学び、プライバシーの確保、呼び方・話し方・接し方に周知徹底を図っている。気が付いたらカンファレンス時等で話し合い、常に意識化を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調を見ながら希望や好みに沿って支援している。新聞を読む人・テレビで野球観戦する人・食事時間を変更する人等、利用者のペースを尊重し、希望に沿って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの芽取り、鶏の皮取りなど料理の準備を一緒にし、同じ物を同じテーブルで介助しながら食べ、食事を楽しめるように配慮している。月1回嗜好調査をして好みに合わせ、月初めに食べたい物を聴いたりしている。後片付けも一緒にしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせていつでも入浴出来るようにし、毎日午前・午後の希望入浴を支援している。拒否の場合は、人を替え時間を替えタイミングを図るなど、意向に沿った支援をし、入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し食事作りや、畑仕事・棚の修理・梅干し・裁縫・生け花など得意分野を発揮し、それぞれ張り合いや喜びのある役割の場面を楽しめるよう支援をし、感謝の気持ちを伝えている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に配慮して毎日散歩している。買い物には月2回、年2回お寿司を食べに行っている。四季折々の花見や莓狩り、柳川の名所を見学したり、イベント行事で月2回のドライブ等、戸外に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関・居室には鍵はない。ユニットの玄関にセンサーマットを敷き、外出者の出入りを把握している。利用者の外出傾向を把握し、見守りを連携している。また一緒に近くを歩き、散歩時に区長・近隣には挨拶を交わし理解を求めるよう働きかけている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て防災訓練を行い、夜間想定もし職員は避難誘導を熟知している。また参加者をさらに増やすよう地域への呼びかけを依頼している。非常食・飲料水・備品等を整備し、夜勤者は5項目の安全シートをチェックし安全に取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量・水分摂取量を記録し把握している。献立は1週交替で職員が立て、利用者の好みを取り入れ刺身の日を作ったり、誕生日には赤飯・ケーキを付けている。年2回、栄養士の専門的アドバイスやチェックを受け栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物や季節の物を飾り季節感に工夫し、共用空間には利用者の日々の写真や作品、花を飾り、ソファを程よく配置、畳の間もあり生活感がある。天井の採光窓からの光や温湿度・テレビの音量も適切で、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、洋服掛、椅子、テレビ、時計、鏡、化粧箱、仏壇など持ち込み、また家族の写真や自分の絵・習字などの作品を飾り、その人らしく安心して過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。